

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191100254		
法人名	TNふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームせせらぎの家		
所在地	〒066-0069 北海道千歳市新屋2丁目2-3		
自己評価作成日	2021.10.25	評価結果市町村受理日	2021.12.17

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvosyoCd=0191100254-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

せせらぎの家は周辺環境に恵まれており、裏山の景観を初めとして四季折々の移ろいを肌で感じることが出来る。「春には桜」「秋は紅葉」冬は、リビングから見える裏山に毎日のようにエゾシカの家族が遊びに来るため、利用者様達はリビングの窓からその景色を楽しむことが出来る。ホームの前には小規模ながら整備された公園があり、車いすの方も安心して散歩を楽しむことが出来る。ウッドデッキの前には、毎年皆で花畑を造っており、千歳開催の「花いっぱいコンクール」に参加しており、過去には「福祉部門」で「最優秀賞」を受賞し、利用者様と表彰を受けに行ったこともあり、一つの励み・楽しみになっている。天気の良い日はデッキで皆でコーヒーを飲みながら談話したりと穏やかな時間を過ごしている。

1ユニット9名で生活している為、家族的で穏やかな生活を送っており、馴染みの関係を構築・維持している。ご本人の生活歴・身体・精神的な部分を分析し、残存機能の維持を大切にし、出来ない部分をさりげなくフォローすることで、生活にハリや活気を見出してもらえるような関りを大切にしたいと考えている。「一般社団法人ふれあいネットワーク」に所属しており、研修制度も充実しており、職員個々の可能性やスキルを伸ばす教育機会があり、地域の連携では「千歳介護医療連携の会」「千歳絆の会」等にも加盟しており、同業他社との研修や行事など、相互の情報交換や交流なども大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム せせらぎの家」は千歳市郊外の自然が豊かな住宅地に位置する1ユニットの事業所で、裏山などの四季が楽しめる恵まれた環境に立地している。平屋建ての建物内は広々しており、ベランダで花壇を眺めたり、窓からも景色の移り変わりを感ずることが出来る。利用者は事業所前の公園を散歩し、遊びに来る子供と触れ合い、また地域の行事や清掃活動に参加し、地域住民として地域に馴染んで暮らしている。13年ほど管理者として運営に関わる中で、徐々に介護度が高い利用者の入居も多くなり、自立支援のもとで共同生活を営むという状況が変わる中で、開設当初からの利用者を中心とした最良のケアを日々問いながら職員と一緒に真摯に取り組んでいる。令和2年の新型コロナウイルス感染症流行から運営推進会議は書面で行い、事前に意見書を取集して検討しサービスにつなげている。面会が難しい中で利用者の暮らしと健康状態を別紙にして送り、また様々な方法で家族と連絡や情報を共有し、家族からも信頼されている。職員の育成に力を注ぎ、介護業務項目ごとの記入で普段の対応を振り返り、学びを積み重ねる過程が質の高いケアになっている。職員は感染症防止対策を徹底し、利用者や周囲の散歩などに出かけ、また好みの多彩な行事食を提供し、利用者と共に楽しむ機会を大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成21年に自分達で過去に作成した「基本理念」3項目(作成当時は6項目)を朝夕の申し送り時に唱和している。理念となるべき想いは介護の基礎となり、折に触れ初心を忘れないように大切に日々のケアを行っている。	事業所の基本理念に地域密着型サービスの視点が盛り込まれている。地域との関わりを大切に利用者を中心としたケアを日々実践している。毎日理念を唱和し、また業務や会議の際に振り返りを行い、理念に込められた意味を理解している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は町内活動なども含めて、なるべく近隣との共有を目指していたが、現在はコロナ渦の為あまり交流を持つことが出来なかった。今後状況が改善することによって活動範囲が増えたと良いと考えている。	令和2年の新型コロナウイルス感染症の流行で直接的な交流はないが、町内会や近隣との関係を継続している。感染症の収束状況を見て町内会行事や活動への参加、保育園児や子供たちの触れ合いなど交流できる地域資源の活用を考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は近隣の方などの相談を受けたり、町内のイベントに参加したり、逆に事業所のイベントに近隣住民を招いて交流をしていた。現在は行う事が出来ないが、今後状況に応じて改善出来る事を期待している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ渦で避難訓練や会議への参加は無くなったが、外部や家族様との意見交換の場として、現在は事前にアンケート等を通して、文面での参加をして頂いている。外部意見を取り入れてより良いサービスを構築したい。	定期的な書面会議を行い、感染症、防災、身体拘束などのテーマで事前に全家族からもアンケートなどで意見を収集している。意見なども参考にして取り組み内容の報告書を送っている。家族の考えを書面で得ており、有意義な場になっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	千歳市の高齢者支援課、及び包括支援センター等から情報などを頂いたり、必要な部分はお相談させて頂いたり、相互協力関係の元で日々の業務に取り組んでいる。	行政の担当者とは相談や協力などで関係を築いている。今回は特に感染症防止の対応について、確認することが多い。市の調査に協力したり情報なども得ており、市主催の研修会にはZoom 配信で参加し、ケアサービスに活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束防止委員会」を定期的に開催しており。不適切な介護とはどのようなものか…ニュースになった案件なども皆で考察することによって理解が深まると思っている。客観的に分析する中で自分達のケアを振り返るきっかけとしている。玄関は施錠せず開放し自由な空間としている。	委員会は事業所内で行い、職員も参加してニュースからの事例を取り上げながら身体拘束の弊害を再認識している。具体的な禁止行為も確認している。年間の研修ではアンケート形式で拘束に関する職員の意見を収集し、利用者が辛い方法話し合い、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に委員会の開催を元に、皆で「拘束・虐待」の意味を考察し、自らの言動を振り返る機会にしている。自分たちのケア提供が正しいかどうか…プランの変更のヒントだったり、ケア内容を見直す時間として活用している。		

ふれあいの里グループホームせせらぎの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内の研修内の項目で(e-ラーニング)もあり、その項目の中で「権利擁護」の項目もあり、順次研修を受けている。個々人の人権は守られるべきものであり、それに伴う制度を知る事によって、深く意味を理解できる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・計画作成者が中心になって入居時に家族様に合わせた方法で、行き違いが起きないように、尚且つ、抱えている不安を払拭出来るように心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を活用して、家族様に対してのアンケート等で、要望などを徴収する工夫をしている。毎月「せせらぎ便り」を作成し郵送し生活風景を家族様に見て頂く様にしている。介護的視点の生活状況に関しては、計画作成が別紙でご報告している。	様々な工夫で家族の思いを汲み取り、書面を通じて考えをより深く理解できている。緊急時以外の連絡方法はメールで行うことを決めている。面会は感染症の流行状況を見極めて窓越しから、10月半ばには短時間でも居室で過ごせるように配慮している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、全体会議用の各自の資料を提出する中で、それぞれ各利用者様の状況を分析しながら、自らの意見提案をしている。日常業務については、職員との話の中からアイデアや提案が出る事もある。	職員は普段のケアなどを項目に沿って記入し会議資料として上げている。それらを基に意見を交換し振り返りを行っている。感染症防止対策を共有し、徹底して防止に努めている。職員は介護業務確認票で自己点検をし、管理者と話し合う機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のキャリア・スキルに合わせて研修環境も整っており、希望があれば支援を受けてスキルアップを目指すことが出来る。基本的に残業は、ほぼ無い状態で現在は勤務状態は安定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場での研修制度が整っており、基本のe-ラーニングを初めとして、資格取得の研修支援制度の機会もある。その研修を受ける前にまず「自己評価」を行い現状を自ら確認して、苦手と思う分野を学ぶチャンスに活用してもらおう。外部研修は現在はZOOMのみ参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「千歳 絆の会」や「千歳医療連携の会」に所属しており、様々な情報を共有・活動している。但し合同の活動研修などは、コロナ渦のため現在はあまり活動が出来ていないが、ホームページやメール等を通じて新しい情報等を収集する事が出来る。		

ふれあいの里グループホームせせらぎの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者が主軸になって、ご本人様のアセスメントを行っている。ご本人の想いを早期アセスメントし、職員全体に周知環境整備を行っている。入居後は環境の変化によって変わる部分も多く、其々に情報を収集して早く過ごしやすい環境になれる様に支援する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者・計画作成担当者が中心となってご家族様との関係を構築している。入所に伴い家族様の不安・葛藤を解消できるよう都度対応している。入所直後からメール配信サービスを使い、入居直後の様子をメールや画像でお伝えして少しでも早く安心頂けるように支援している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前情報を元に、その上でアセスメントをしっかりと行って、試行しながら利用者様に最適なケア環境を見極める。環境が変わった直後は不安定なので、身体・精神共に流動的なのだが、職員がそれぞれの角度から分析し、情報を収集し問題を抽出・分析する。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護員としてだけではなく、ご本人の理解者・話し相手・相談相手・遊び相手・・という対等な立場での会話を大事にする。なかなか言葉に出せず、ご本人ももどかしい場合も、行動や表情などで読み解いて行く事も大切。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の悩みや問題点を理解した上で、現在の状況にを踏まえて、共に考えていく姿勢が大切。メール制度を導入して、細部の思いを何う事に活用できている。投げかけられた質問に真摯に対応する事で信頼関係が築けると考えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ渦で家族様との面会も1時的に出来なかったが、段階を得て「オンライン面会」「窓越しの面会」と原状復帰しつつあり、10/15から15分だけの面会が開始。徐々に家族様との笑顔が戻って来ている。	友人の電話を取り次ぎ、交流が継続できるように対応している。感染症流行の状況を見て散歩し、ウッドデッキで花壇を眺めるなど周辺が馴染みになっている。生活歴から音楽が趣味の利用者には楽しめる場を作り、家族の演奏を楽しむ機会もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自己決定が出来る方は、極力「自己意思を尊重」している。それ以外は個別の個性を理解し、何を求めて、何に対して抵抗があるのかを把握した中で、調和を保てるように職員が介入しながら誤解や行き違いが無いように注意しながら対応している。		

ふれあいの里グループホームせせらぎの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況にも寄るが、極力その後の経過にも配慮したい。 季節のお便りなど先方の負担にならない範囲でのお声掛けを実施していきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己決定が出来る方は、決められるようにサポートをしたりと、極力ご本人の意思を尊重した中でのサポートを心がけている。	分かりやすい言葉かけで思いを聴き取り、また表情や状況から読み取ってケアにつなげている。センター方式(B-3)シートに、趣味、嗜好、暮らしの習慣などを具体的に記録し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報や家族様を含めて関係者からの情報を元に、アセスメントシートを活用して、過去歴及び身体状況などの把握をした上でケアを提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調・精神面によって生活が変わってくる。その為、日々のサイクルの中でADL IADL踏まえて、最適な1日のリズムを考えて提供する。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や日常記録などを基本にプランに沿ったモニタリングを実施し、修繕・差替え等。家族様も含めて複数人で多角的に見ながら最適なプランを作成している。	毎月の会議で利用者の状態を話し合い、変化があれば計画を作り直している。安定している場合は3か月ごとにモニタリング評価のもとに利用者、家族の意向を計画に反映させ介護計画を作成している。記録類はパソコン上で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の詳細は介護ソフトに都度記入しており、共有もしくは統計確認などは「申し送りノート」を見て皆で供覧した上で、実践への導入・見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様や医療関係を含めて社会資源の活用を中心に、近隣施設なども状況に応じて楽しんで活用している。今後もソーシャルディスタンスを確保し安全に楽しめる様なサービスを提供していきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	活用可能地域資源を、ご利用者様の状態に合わせて活用したいと考えている。現在はコロナ渦が落ち着きつつあり徐々に広げていく予定。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は24時間対応可能なドクターが月に2回往診に来て下さり、既往や症状に応じて他科の受診も情報を共有した中で医療的な部分を広くカバーしている。	協力医療機関の訪問診療を受けており、内科以外の専門的な通院には家族や職員が対応している。職員が同行の時は結果を家族に報告している。受診記録は利用者ごとに往診と通院の経過を記載し時系列に把握できる工夫をしている。	

ふれあいの里グループホームせせらぎの家

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の看護師と24時間連携可能。必要に応じて1時的に「訪問看護」にて対応出来、急な発熱や体調不良の際に、利用者様はホームに居ながら診察・治療・処置を受けることが出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の医師・看護師・相談員などとの連携は上手く行っている。入退院のみならず、入退去に関しても相談員との依頼や打ち合わせ等がある。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で、生活できる範囲と退去に該当する状態についてのご説明を行う。入居後は月に1回の状況報告を元に医師のアドバイスも交えてご本人様の現在の状況と、ご本人・家族様の意向を踏まえた上で終末期は適切な場所(病院・療養型施設等)のご提案をしていく。	利用開始時に重度化や看取りなど事業所の対応について説明し同意を得ている。状態の変化に応じ、終末期には主治医の説明のもとに入院治療が必要な時は病院の紹介もある。職員は調理の工夫や栄養補給などで可能な限り対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に二回消防の避難訓練を実施している。必要な非常食や防災道具を整備し、各自順番に正常に始動できるか確認する事で使用方法を確認している。土砂災害注意区域の為、土砂災害の訓練も予定。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日頃から避難場所のシミュレーションを行っている。町内会からも緊急時の連絡先など配慮して頂いている。以前は町内会含む避難訓練を行っていたが、コロナ渦で現在は参加されておらず状況が回復したら共に実施したい	感染症防止から、年に2回夜間を想定した火災避難訓練を自主訓練で実施している。地震や土砂災害時の避難場所はシミュレーションを行い、実際に確認したが課題も感じている。災害備蓄品類は各災害時の経験も参考に話し合い整備している。	感染症流行の収束状況を見て、今後は火災のほか、自然災害の避難訓練を消防署、住民の協力のもとで行う意向もあるので、その実現に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	係る際の言動には注意する。ご本人様の人格・思いを尊重し、人生の先輩・・・という立場も忘れない様にする。入浴・排泄など特にデリケートな部分は声掛け・対応に注意する。	ニュースでの不適切ケアの事例を提示し職員の考えをレポートする研修を実施した。全体会議でプライバシーや尊厳に配慮した接遇であるかを検証している。個人記録類はパソコンで管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずはご本人様の思いの内容を受容する。その中で、ご本人様の意志決定が出来るように援助する。自己決定が苦手だったり、失語されている場合は表情や状況から読み取るなどが必要。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の意志を受容しながらも、身体・精神にあった生活ペースを維持できるように、会話や表情から読み取って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節やその方の好みに合った衣類や髪形などで気分が楽しくなるような支援を行っている。		

ふれあいの里グループホームせせらぎの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は管理栄養士の作ったバランスの良いメニューを元に調理・提供しているが、パンの日、外食メニューの日等、変化をつけている。下準備で可能な部分はお手伝い頂いている。	栄養管理士の献立で季節の行事食が多彩である。海鮮チラシや寿司セット、敬老の日ほうなぎなどの人気メニューが並び、火曜日は選べるパンの日、プリンパフェやフルーツたっぷりゼリーなど、おやつは目でも楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの良い食事を提供している。食事があまり進まない方に関してはラコールなど別方向での接種を医師に相談しながら行っている。水分量は各自必要量の目安があり、種類や方法を変えながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の状態に合わせた口腔ケアを提供している。月に1度、歯科医往診により口腔指導を受けており、利用者様のADL改善に活かしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に関しては、出来るだけ自立する事が出来るように、なるべくトイレで行える様に誘導している。ご本人の持つ身体的な能力や性格に留意して対応する。	全員の排泄チェックを行い、立位や座位が保てる方は夜間帯もトイレでの排泄を支援している。重度化の利用者は本人が辛くならないようにベッド上で排泄介助を行っている。失敗が見られた際は他者に気づかれないようにさりげなく誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者様おひとりおひとりの排泄パターンや状態を把握したうえで、水分量や食事の形態を見直しながら、医師とも連携し、ご本人に最適な排泄パターンとなる様に支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴のチェックリストを元に間隔を考慮しながら、入浴に誘導している。予定では無くても入浴は可能で、予定の方の気分が乗らない場合は延期とする。極力ご本人のペースに合わせて行っていく。	午前中に入浴となる事が比較的多いが、午後の時間帯も対応し利用者の意向や状態に合わせている。週2回以上の入浴している利用者や好きな長風呂を楽しむ利用者がある。重度の利用者は入浴専用のリクライニング機器を使用し洗身している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の身体状態で、必要とあれば居室でお休みになられる。ご本人が、自分の疲労感に気が付かないときがあるので、ご本人の意思を尊重しながら状況を観察しつつ誘導する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様のそれぞれの服薬情報は解りやすく一括でファイリングしており、内容を直ぐに確認出来るようになっている。各自のADLに合わせてパウダーをゼリーにくるむ等、安全に服薬できるように調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操や散歩レクリエーションなど、体を動かす事や、歌や塗り絵などの作業などでの気分転換なども行っている。コロナ禍でなかなか外出できない分ホーム内で「ミニお祭り」等で楽しむなど、無理なく皆で楽しむ事を見つける		

ふれあいの里グループホームせせらぎの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出が出来なかったが、千歳市主催の「花いっぱいコンクール」に参加して皆で花壇や野菜を作って楽しんだ。現在少し緩和された中で、日中の暖かい時間を使って、青葉公園や道の駅などを訪問することも出来るようにはなってきた。	外出制限の緩和に伴い、感染症対策を講じつつドライブで青葉公園や道の駅に出かけている。すぐ向かいの新星公園に訪れる保育園児の賑わう姿に微笑んだり、自然豊かな周辺環境を活かした散策や秋の俳句作りも同時に楽しむ散歩も満喫している。テラスは食事やおやつ、気分転換などに最大限活用し、花壇や菜園作業など戸外を十分楽しめている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本個人で現金管理はしていない。必要な方物の際には、事業所で立替払いで購入して、後日ご家族様に請求という形になっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由につなぐ事が出来る。ZOOMは仕様は可能だがご家族様方で希望者がいなかった。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2時間ごとにホーム内の消毒及びトイレの掃除を行い、利用者様達に心地よく安心して過ごして頂けるように環境を整えている。ホーム内の装飾に関しては、季節感を大事にし、日常の皆の写真を多く掲示して、その時々を思い出せるように作っている。	感染症対策に力を入れ、消毒は元より玄関には自動体温測定器を設置しマスク交換も行っている。リビングダイニングは明るく、窓からは四季折々の美しい自然の景色や公園が見え、広いテラスも絶好の環境となっている。廊下のオブジェは春夏秋冬を意識した安らぎを感じさせる飾り付けである。ソファコーナーにゆったりと座ったりと、1人ひとりがお気に入り場所で寛げる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールテーブル・ソファ・ウッドデッキ等、それぞれ皆で集まって団欒を過ごす場所もあれば、お部屋でゆっくりとテレビを見る時間もあり、それぞれ自由に過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれに思い出深い愛着のある家具を持ち込まれており、馴染みの場所として過ごしている。車いすなどを使用されている方は、身体状況に応じて動線に障害が無いように配置し、安心安全。心地よい環境づくりを目指している。	利用開始前に使用していたお気に入りの家具や調度品が持ち込まれ、壁飾りや置物などは本人の見位置にも配慮している。スムーズな出入りやベッドでの寝起きなどの動線も考慮し、安心して過ごせる環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	どの場所で何が出来るかという事を、ネームプレートをつけて皆が解りやすいように表示している。全域バリアフリーで、動線に障害が無いように配慮している。ひとりひとりの動きを自然な中で観察して、必要なサポートをする。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームせせらぎの家

作成日：令和 3年 12月 15日

市町村受理日：令和 3年 12月 17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	感染症流行の収束状況を見て、今後は火災のほか、自然災害の避難訓練を消防署、住民の協力のもとで行う意向もあるので、その実現に期待したい。	避難訓練(火災・土砂災害共に)について、それぞれのシミュレーションで分析して実際に模擬訓練として実施する。尚且つ、地域の住民の皆様にも情報を共有できるよう働きかけを行える事を目標とする。	①火災訓練も複数のパターンでのシミュレーションを作成 ②土砂災害のシミュレーションを再度調整。 ③ホーム内で複数回実施する中で内容の調整・整備 ④地域住民・町内会などに内容報告 ⑤可能な状況であれば訓練に参加して頂き共有し、内容を整備し、緊急時の協力体制の強化に活かしていきたい。	6か月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。